

彦根城博物館スケジュール

Hikone Castle Museum Exhibitions

令和7年4月▶令和8年3月

特別公開

国宝・彦根屏風

令和7年4月24日(木)▶5月13日(火)

近世初期風俗画の傑作、国宝・彦根屏風を特別公開します。



風俗図(彦根屏風)

テーマ展

伝統芸能入門 悠久の雅楽

令和7年7月24日(木)▶8月24日(日)

大陸の楽舞と日本古来の楽舞とを総合した芸能、雅楽。奈良時代以来、宮廷文化を華やかに彩り、江戸時代には身分を超えて大名から庶民にまで広まりました。その特徴や楽器などについて分かりやすく紹介します。



舞楽面 陵王



笙 銘元永丸 慶俊作

テーマ展

湖東焼賞玩 蒐集と研究の軌跡

令和7年5月16日(金)▶7月21日(月・祝)
6月19日(木)・20日(金)は休館

江戸時代に彦根で産声を上げた湖東焼は名窯として知られています。本展では、井伊家伝来品と、新たに寄贈を受けた湖東焼コレクションなどを通じて、湖東焼の蒐集と研究の歴史を紹介します。



湖東焼 青磁牡丹陰刻文花生

特集展示

大名と茶の湯 井伊家伝来茶道具名品選

令和7年5月16日(金)▶6月17日(火)

江戸時代、茶の湯は大名に必須のたしなみとして重んじられました。徳川家康から拝領した大名物・宮王肩衝茶入をはじめとする茶道具の名品や、井伊直弼ゆかりの品を展示し、井伊家の茶の湯をひもときます。



宮王肩衝茶入

企画展

石田逸翁と秀蘭 高宮出身の兄妹絵師

令和7年8月28日(木)▶9月23日(火・祝)
9月2日(火)は休館

岸駒を祖として京で一時代を築いた画派、岸派。近江国高宮出身の石田逸翁(秀峰1800~69)は、京で活躍した岸派の絵師で、法橋・法眼に叙せられました。逸翁の妹秀蘭(1803~63)もまた、絵師として活動していたことが分かっています。本展は、石田兄妹の画業と生涯を紐解く初の展覧会です。



桜に鶉図(部分) 石田秀蘭筆(個人蔵)



桃園結義図(部分) 石田逸翁筆(圓常寺蔵)

特別展

「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」開催記念 大名とスポーツ 武芸と遊興の祭典

令和7年9月27日(土)▶11月3日(月・祝)

武士の本分である弓術や馬術などの武芸。これらは、泰平の世の江戸時代、各流各派が勃興して隆盛し、競技性も拡大しました。武家はまた、公家の遊戯であった蹴鞠や打毬なども古くから取り入れています。本展では、現代のスポーツに通じるこれら武芸や遊興と、大名との関わりについて注目します。



調馬図屏風(部分) (多賀大社蔵)



黒塗橋井桁紋雲龍時絵壺胡瓶

企画展

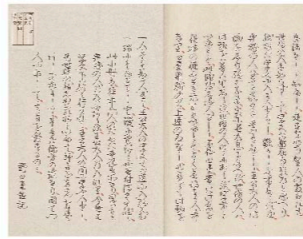
彦根藩儒学の胎動 新たな学びの18世紀

令和7年11月8日(土)▶12月7日(日)

高宮宿で活動した京の儒学者若林強齋(1679~1732)や江戸の儒学者と交流した彦根藩士野村東臈(1717~84)。18世紀の彦根藩では、彼らによりもたらされた新たな儒学が藩士を中心に広まり、のちの藩校創設にも繋がる向学の気運が高まりました。本展では、江戸中期彦根の儒学受容の様相を紹介します。



若林強齋肖像(部分) (小浜市立図書館蔵)



学文の意得 野村東臈著

テーマ展

彦根城と城下町 江戸時代の彦根のかたち

令和7年12月10日(水)▶令和8年2月16日(月)
12月16日(火)・25日(木)~31日(水)・1月15日(木)・16日(金)は休館

彦根城は西国の押さえとして築かれ、城下には計画的な町割りの都市が広がっていました。絵図に描かれた石垣や堀、道路や水路、櫓や門の配置、街区のあり方に注目し、それらの機能や役割について紹介します。



彦根城内絵図



老中奉書

特別公開

雛と雛道具

令和8年2月19日(木)▶3月15日(日)
3月9日(月)は休館

井伊家13代直弼の愛娘弥千代(1846~1927)の雛人形と大揃いの雛道具を、地元の旧家に伝来した古今雛や御殿飾りなどとともを一挙公開。春の訪れを告げる恒例の展示です。



弥千代の雛道具(屏風・小袖・挟箱・三棚)

テーマ展

鑢とりどり 技巧と意匠の粋

令和8年3月19日(木)▶4月20日(月)

鑢は刀を持つ手を保護する刀装具の一種です。室町時代以降、実用を超えて金象嵌や透かし彫りなどの金工技術が凝らされた、多様な意匠の鑢が作られました。本展では、井伊家伝来品を中心に館蔵の鑢を紹介します。



木瓜形波に蛸図鑢 銘井関八左衛門